

【特別の教育課程の実施に関する自己評価】

初等部で6年間、中高等部で6年間、計12年もの間、一般教科を英語で学ぶ英語イマージョン教育で、今までの英語教育では得ることができない高い英語力の習得という成果を挙げている。卒業後に海外の大学へと進学する生徒が継続的にでていることは、1つの証拠であると考ええる。

同時にイマージョン教育は、その英語習得を越える成果と価値がある。それは、違いを受け入れ、論理的でしかも柔軟な思考、自分の意見を持てる人間が育つことである。クリティカル・シンキングを身につけていくということは、日々変化を遂げる国際社会のなかでも活躍できる人材を育成していくという本校の教育目標にも合致している。

本校の児童生徒たちは、多国籍の教職員から英語という言語を通して教育を受けている。このことは、自然と国際協調の精神を育むことであると考ええる。そのような多様性の中で主体性を育む教育を行っていくことは、本校の子どもたちが社会に出て行く際、誰とでも互いを尊重した人間関係を築くことができ、より良い社会を作っていくことに貢献していくと考える。

中高等部においては、国際バカロレア・ミドルイヤーズ・プログラム（IB-MYP）、またディプロマ・プログラム（IB-DP）の認定校になっている。英語で実施するIB校としては、一条校として日本で最大規模を誇り、卒業後の進路指導として、国内大学のみならず、海外大学進学に対する支援体制も充実してきている。海外進学カウンセラーの配置のほか、米国大学進学に必要なSATの受験会場となるなど、英語イマージョン教育を受けた生徒達の進路選択の幅も広がっている。